

この度は本品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

【完成図】



【日本製】

たんす類の品質表示

寸法
外形 約幅 600mm × 奥行 191mm × 高さ 1830~2320mm
引出しの奥行
表面材 プリント紙化粧合板
表面加工
取り扱い上の注意
イ. 据付けの際には、湿気の多いところを避け、家具を水平に保つために必要な措置を講じてください。
ロ. 直射日光又は、ストーブ等の熱を避けてください。

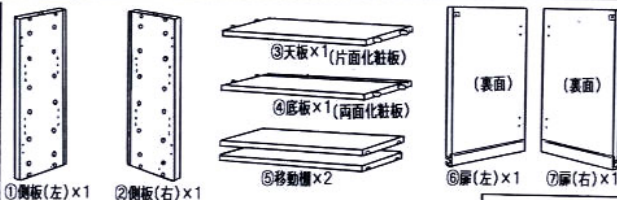
耐荷重量についての表示 固定棚10kg、可動棚は5kgを超えない範囲でご使用下さい。

部材 - 部品明細

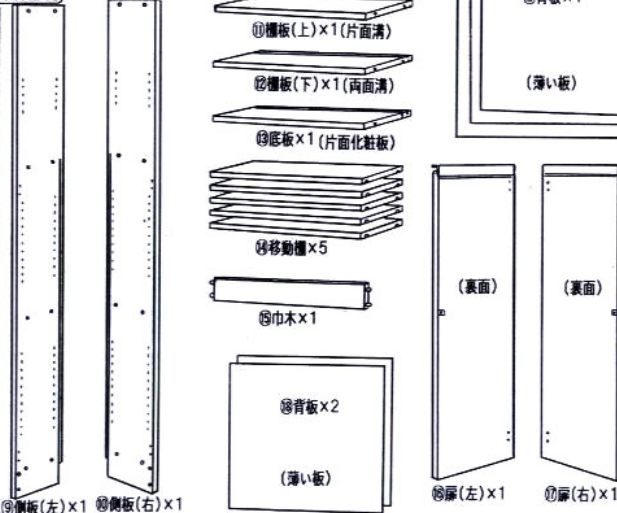
（部品明細）※下図に描かれた部材・部品が揃っているか、確認して下さい。

※梱包を開けると、箱の両端に薄い板が1枚づつ入っています。これは商品を保つためのものであり、組み立てに必要な部材ではありませんので、処分していただくようお願い致します。

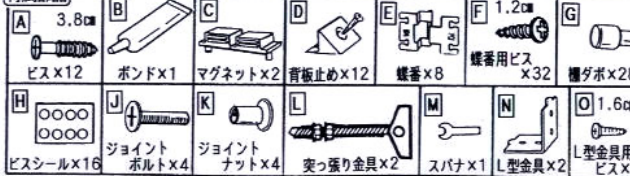
【上置き部材】



【本体部材】



【付属部品】



△組み立て前に必ずお読み下さい!

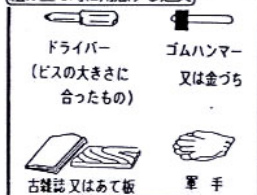
- 塗料・接着剤等の臭いがかもっている場合があります。梱包を開けて作業する場合は通気性を良くして行ってください。
- 組み立ては十分に広い場所で行い、まわりの家具や床等に傷がつかないように注意してください。
- 組み立ての際は指を挟んだり、足にものを落とさないように充分注意してください。
- 組み立てる前にまず部材・部品を確認してください。
- 万一、傷・不足があればご面倒ですが下記のお問い合わせ窓口までご一報ください。
- ボンドをつける前に仮組み(確認)をすると、間違いが防げます。
- 部材をボンドで接着した後では外す事ができませんのでご注意ください。
- ビスのプラス穴に合ったドライバーを使用し、最初は仮締め程度にして組み上がってから締めてください。
- ビスを必要以上に締め過ぎると、空回りして効かない場合があります。
- ボンドが完全に乾いてから(12時間程度が目安です)ご使用ください。尚、はみ出たボンドは拭き取ってください。

(注意)※商品を保つために薄い板が2枚入っていますが、組み立てに必要な部材ではありません。

※裏面の取扱説明書も必ずお読み下さい。また、この説明書はいつでも見られるように大切に保管して下さい。

上記の注意事項に充分注意して、正しく組み立てて下さいますようお願い致します。

組み立て時に用いる道具

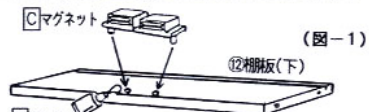


組み立ての手順

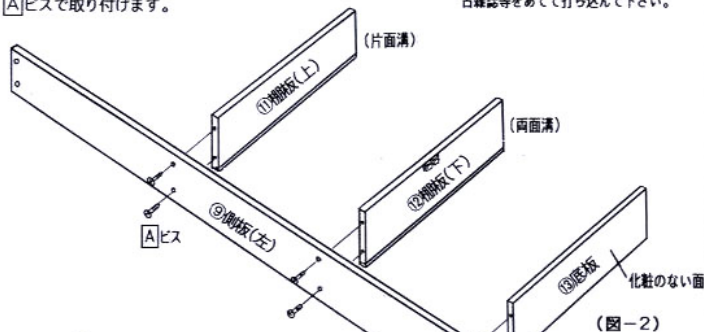
番号の順番に従って、組み立ててください。

1 本体を組み立てる。

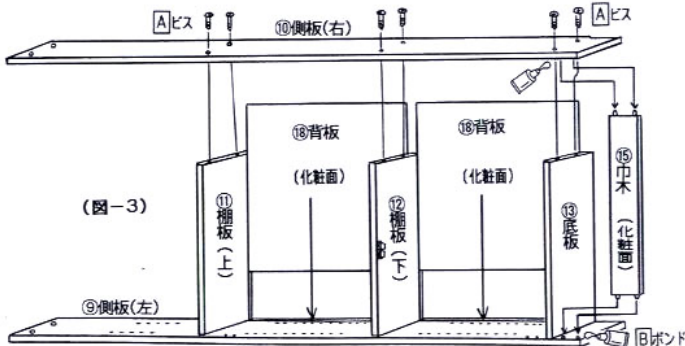
- (1) ⑫棚板(下)の穴2個に[B]ボンドを入れ、
[C]マグネットを取り付けます。(図-1参照)



- (2) ⑨側板(左)に⑪棚板(上)・⑫棚板(下)・⑬底板を、
[A]ビスで取り付けます。



- (3) ⑨の穴2個に[B]ボンドを入れて⑮巾木を差し込み、
⑪・⑫・⑬の溝に沿って⑮背板を2枚差し込みます。
- (4) ⑩側板(右)の穴2個に[B]ボンドを入れて⑮に差し込み、
⑪・⑫・⑬に[A]ビスで固定します。(ここまで図-3参照)
この時、⑮2枚が各溝に入っているか確認して下さい。

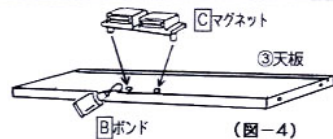


※ハンマーで叩く場合は、あて板・古雑誌等をあててください。

(注意) ※[C]マグネットを差し込む時に固い場合は、直接たたくと破損する恐れがありますので、古雑誌等をあてて打ち込んで下さい。

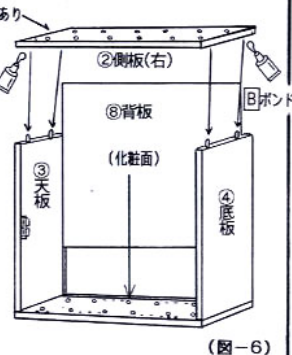
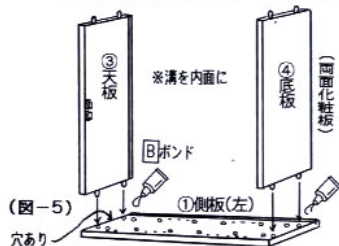
2 上置きを組み立てる。

- (1) ③天板の穴2個に[B]ボンドを入れ、[C]マグネットを
取り付けます。(図-4参照)

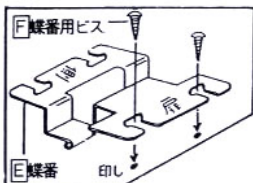


- (2) ①側板(左)の穴4個に[B]ボンドを入れ、③天板と
④底板を差し込みます。(図-5参照)

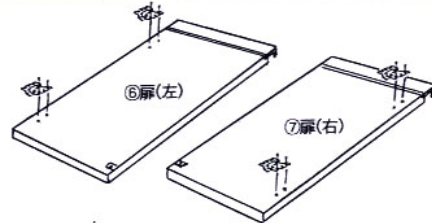
- (3) ③と④の溝に沿って⑥背板を差し込み、②側板(右)の穴4個に
[B]ボンドを入れ、③と④の突起した部分に穴を合わせて、上から
傷の付かない様にあて物をあてて打ち込みます。(図-6参照)
この時、⑥が各溝に入っているか確認して下さい。



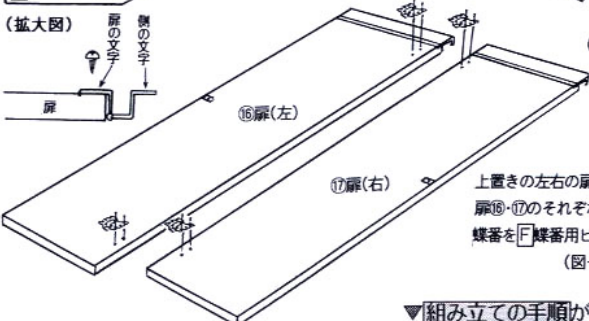
3 扉に蝶番を取り付ける。



(拡大図)



(図-7)



上置きの左右の扉⑥・⑦及び本体の左右の
扉⑮・⑯のそれぞれの印しに合わせて、[E]
蝶番を[F]蝶番用ビスで取り付けます。
(図-7及び拡大図参照)

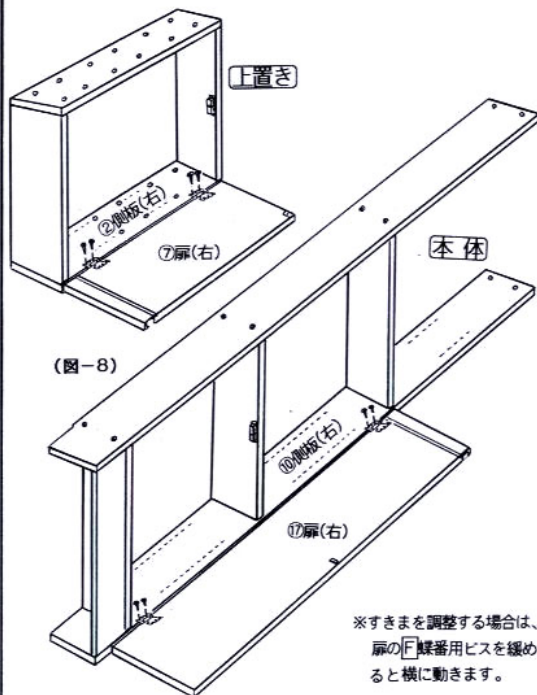
▼組み立ての手順が裏面に続きます。

4 本体と上置きに扉を取り付ける。

F-286

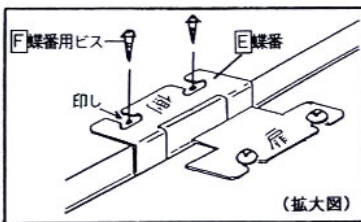
(1) ⑦扉(右)・⑩扉(右)に付いているE蝶番を、②側板(右)・⑩側板(右)の印しに合わせ、F蝶番用ビスで取り付けます。(図-8及び拡大図参照)

(2) 同じ要領で⑥扉(左)・⑩扉(左)も取り付け、中央のすきまを調整して下さい。



※すきまを調整する場合は、扉のF蝶番用ビスを緩めると横に動きます。

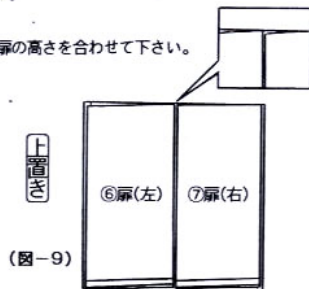
前・後・上・下を調整する場合は、側板のF蝶番用ビスを緩めると調整出来ます。



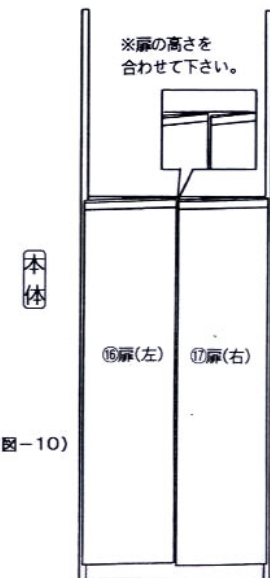
5 背板止めを取り付ける。

(1) 本体の横揺れを軽減するため、D背板止めを取り付けます。もしも上置き・本体にゆがみがあったり、図-9・図-10の様に扉の高さが合わない場合は、強制しながら取り付けして下さい。

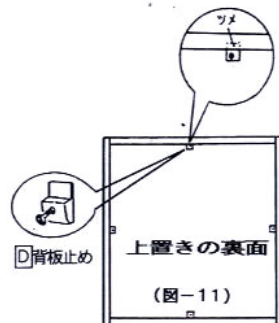
※扉の高さを合わせて下さい。



※扉の高さを合わせて下さい。



(2) 取り付け方は上置き・本体の裏面の背板部分にD背板止めのツメを溝に入れ、ビスで固定します。(図-11・図-12参照)



している場合は、反対面から力を加えて強制加えて強制して下さい。逆の方向にゆがんだら、逆の方向にゆがみがある場合は、力を加えて強制して下さい。



逆の方向にゆがんでいる場合は、反対面から力を加えて強制して下さい。逆の方向にゆがみがある場合は、力を加えて強制して下さい。

▼設置の手順が別紙に続きます。

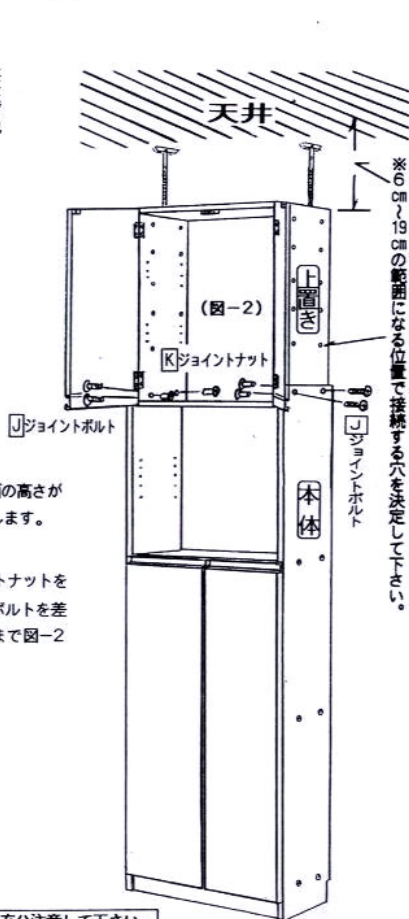
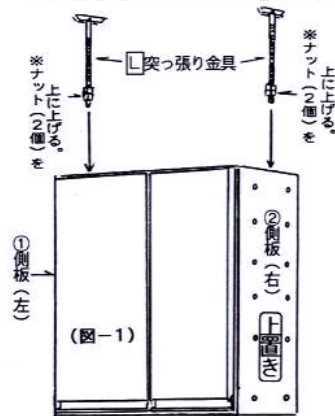
使用上の注意 ※組み上がった後、そのままボルトが固まるまで12時間程度待ってから、ご使用下さい。

設置の手順

番号の順番に従って設置して下さい。

1 本体に上置きを接続する。

- (1) L突っ張り金具に付いているナット(2個)を上上げて、左右側板①・②の上部の穴に差し込みます。(図-1参照)



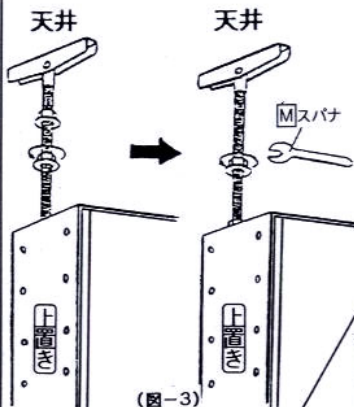
- (2) 設置場所に本体を置き、天井と上置きの上面の高さが6cm~19cmの範囲になる位置で本体と接続します。

- (3) 接続方法は上置き内面の穴からKジョイントナットを差し込み、本体外面の穴からJジョイントボルトを差し込み、しっかりと固定して下さい。(ここまで図-2参照)

A指を挟んだり、上置きを落としたりしない様に充分注意して下さい。

2 突っ張り金具を取り付ける。

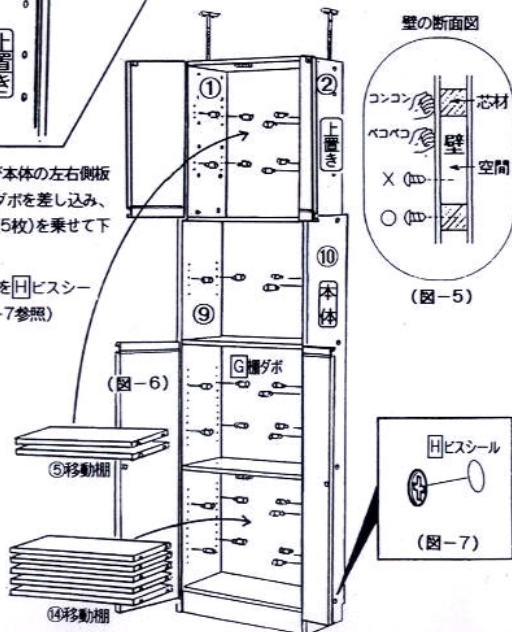
- L突っ張り金具の上部を天井にあて、下ナットを上置きの側板部分に固定し、上ナットをMスパナでしっかりと締めて下さい。(図-3参照)



- (2) 上置きの左右側板①・②及び本体の左右側板⑨・⑩のお好みの穴にG棚ダボを差し込み、⑤移動棚(2枚)と⑭移動棚(5枚)を乗せて下さい。(図-6参照)

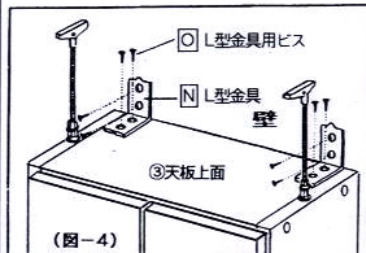
- (3) 最後に見えるビスの頭をHビスシールを貼れば完成です。(図-7参照)

(注意)※N L型金具は必ず天板上面の両端に取り付けて下さい。
端でない芯材が入っていないので、ビスが効きません。



3 移動棚を取り付ける。

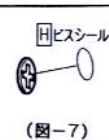
- (1) 地震等による転倒を避けるため、N L型金具を上置きの③天板上面の後部両端に取り付け、柱鴨居または壁(芯材のある所)に取り付ければ、より一層安全性が高くなります。(図-4・5参照)



壁の断面図



(図-5)



(図-7)